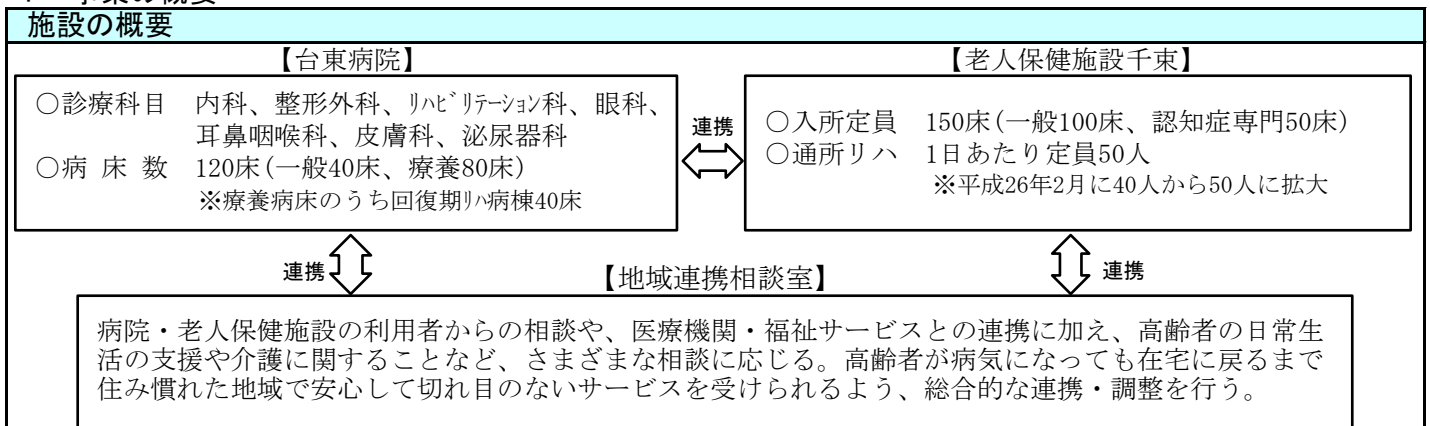


平成27年度 台東区立台東病院及び老人保健施設千束 運営評価表
(平成26年度実績の評価)

施設名	台東区立台東病院・老人保健施設千束
事業開始年度	平成21年度
開設者	台東区（病院所管課：健康部健康課、老健所管課：福祉部高齢福祉課）
指定管理者	公益社団法人地域医療振興協会
評価の目的	サービスの提供の効果等について、記録、測定又は分析し、一定の基準に照らして客観的に評価・検証することにより、業務・運営等を継続的に改善させる。
評価内容	○新台東病院等整備基本計画に定める基本理念を的確に反映しているか。 ○基本協定書に基づき、保健・医療・福祉機能とその役割を適切に果たしているか。 ○地域に開かれた施設になっているか。
評価項目	①役割・機能、②効率性・経済性、③計画性・改善状況等

1 事業の概要



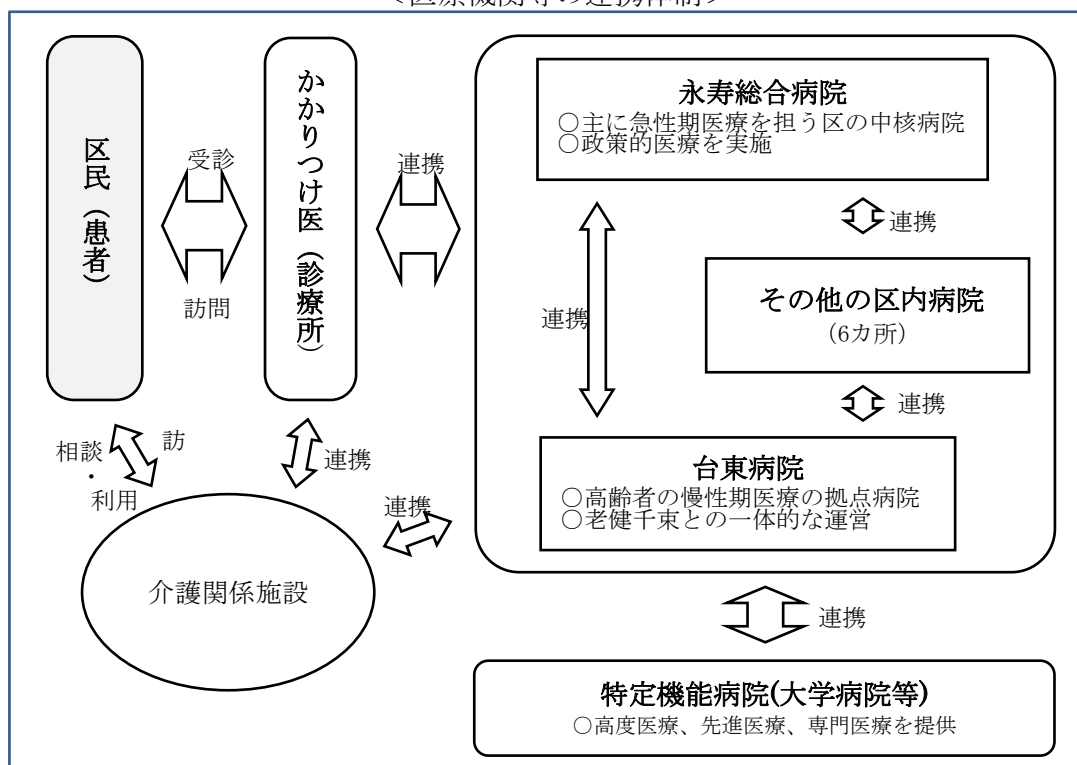
施設の基本理念	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者が住み慣れた地域で療養できるよう、高齢者の慢性疾患に対応する病院と在宅復帰に必要な入所施設を一体的に確保します。 ○ 高齢者がいつまでも自分らしく、安心した在宅生活を送ることができるよう、保健・医療・福祉サービスを提供します。 ○ 高齢者が施設や在宅で必要な保健・医療・福祉サービスを円滑に利用できるよう、サービスの担い手との連携を積極的に推進します。 ○ 安心して子育てができるよう、医療の面から支援します。 ○ 快適な療養環境や質の高いサービスを効率的に提供します。 ○ 『運営の透明性』、『区民に対する説明責任』を確保し、上記の理念が適切に果たされていることを区民の視点に立って評価・検証します。 	

基本方針	
台東病院	<ul style="list-style-type: none"> ○総合医を中心としたチームによる医療を提供します。 ○利用者本位で、満足度の高い医療を提供します。 ○関係機関との連携を推進し、安心して在宅生活を送れるよう、医療を提供します。 ○医療従事者の育成と資質の向上に努めます。 ○区の小児初期救急医療のしくみを補完します。 ○健全で安定的な経営基盤の確立を図ります。
老健千束	<ul style="list-style-type: none"> ○良質で包括的なサービスを提供します。 ○利用者の人格及び意思を尊重し、快適で質の高い療養・介護環境を提供します。 ○地域の福祉関連機関との連携のもと、円滑な在宅復帰を目指します。 ○病院に併設されていることの利点を最大限に活かします。 ○健全で安定的な経営基盤の確立を図ります。

2 指定管理者の運営理念等

運営理念
『ずっとこのまちで暮らし続けたい』を応援します
運営基本方針
<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者医療に力をいれます ○ 在宅医療を支援します ○ まずは受け入れるという姿勢を持ちます ○ 地域と連携してサービスを提供します ○ 医療に恵まれない地域の支援を行います

< 医療機関等の連携体制 >



3 事業の現況とその推移

(1) 経営の状況

(単位：千円)

区分		24年度	25年度	26年度	前年度比	備考	
台東病院	総収益	医業収益	1,565,315	1,753,098	1,883,345	130,247	入院収益、外来収益など
		医業外収益	135,414	119,440	136,958	17,518	指定管理料、売店等事業収益など
		計	1,700,729	1,872,538	2,020,303	147,765	
		(うち指定管理料)	64,666	43,087	44,280	1,193	指定管理料
	総費用	医業費用	1,673,324	1,806,478	1,952,628	146,150	給与費、材料費、委託費など
		医業外費用	45,963	69,327	69,381	54	売店等事業費用など
		計	1,719,287	1,875,805	2,022,009	146,204	
	損益	医業損益	△ 108,009	△ 53,380	△ 69,283	△ 15,903	
		医業外損益	89,451	50,113	67,577	17,464	
計		△ 18,559	△ 3,267	△ 1,706	1,561		
老健千束	総収益	事業収益	823,886	836,633	877,016	40,383	入所・通所リハ収益
		事業外収益	4,014	4,446	4,974	528	患者外給食収益など
		計	827,900	841,079	881,990	40,911	
		(うち指定管理料)	0	0	0	0	
	総費用	事業費用	733,785	739,682	758,074	18,392	給与費、材料費、委託費など
		事業外費用	2,583	17,198	25,452	8,254	患者外給食委託費など
		計	736,368	756,880	783,526	26,646	
	損益	事業損益	90,101	96,951	118,942	21,991	
		事業外損益	1,431	△ 12,752	△ 20,478	△ 7,726	
計		91,532	84,199	98,464	14,265		
全体	総収益	事業収益	2,389,201	2,589,731	2,760,361	170,630	
		事業外収益	139,428	123,886	141,932	18,046	
		計	2,528,629	2,713,617	2,902,293	188,676	
		(うち指定管理料)	64,666	43,087	44,280	1,193	
	総費用	事業費用	2,407,110	2,546,160	2,710,702	164,542	
		事業外費用	48,546	86,525	94,833	8,308	
		計	2,455,655	2,632,685	2,805,535	172,850	
	損益	事業損益	△ 17,909	43,571	49,659	6,088	
		事業外損益	90,882	37,361	47,099	9,738	
計		72,973	80,932	96,758	15,826		

※端数処理を行っていないため、それぞれの合計が一致しない場合がある。

収支の概要

台東病院	<p>前年度と比べ、医業収益は約1億3千万円(7.4%)増の18億8,334万5千円、医業費用は約1億4,600万円(8.1%)増の19億5,268万8千円で、医業損益は約1,600万円悪化し6,928万3千円の赤字となった。医業外収益は約1,700万円(14.7%)増の1億3,695万8千円(指定管理料4,428万円を含む)、医業外費用は横ばいの6,938万1千円で、医業外損益は約1,700万円増の6,757万7千円の黒字となった。この結果、台東病院全体の損益は約156万円改善し170万6千円の赤字となった。</p>
老健千束	<p>前年度と比べ、事業収益は約4,000万円(4.8%)増の8億7,701万6千円、事業費用は約1,800万円(2.5%)増の7億5,807万4千円で、事業損益は約2,200万円増の1億1,894万2千円の黒字となった。事業外収益は横ばいの497万4千円、事業外費用は約800万円(48%)増の2,545万2千円で、事業外損益は770万円悪化し2,047万8千円の赤字となった。この結果、老健千束全体の損益は約1,400万円増の9,846万4千円の黒字となった。</p>

(2) 運営の状況

① 役割・機能

【台東病院】

区分		24年度	25年度	26年度	前年度比	備考	
体制	職員数	医師	15.9人	19.3人	18.5人	△0.8人	○年度末を基準とする ○常勤医師以外は常勤換算人数 ○総合医は常勤と非常勤の合算 ※前年度の評価表は常勤のみ計上
		常勤医師	9人	12人	11人	△1人	
		非常勤医師	6.9人	7.3人	7.5人	0.2人	
		総合医(再掲)	8.9人	12.3人	11.3人	△1.0人	
		看護・介護職員	87人	87人	94人	7人	
		リハビリ職員	19人	25人	24人	△1人	
入院	病床利用率	83.0%	86.8%	90.5%	3.7%	病床利用率=入院延患者数÷延病床数×100	
	一般病床	83.9%	84.8%	86.4%	1.6%		
	療養病床	81.9%	88.0%	92.4%	4.4%		
	回復期リハ	83.4%	87.5%	92.6%	5.1%		
	新入院患者数	956人	1,060人	1,091人	31人	平成26年度に新たに入院された患者数	
	一般病床	817人	877人	901人	24人		
	療養病床	48人	49人	47人	△2人		
	回復期リハ	91人	134人	143人	9人		
	平均在院日数	38.0日	36.0日	36.6日	0.6日	延入院患者数÷(新入院患者数+退院患者数)÷2	
	一般病床	17.0日	16.0日	15.8日	△0.2日		
	療養病床	128.5日	132.5日	129.1日	△3.4日		
	回復期リハ	85.1日	69.2日	75.3日	6.1日		
	台東区民の占める割合	81.9%	84.6%	83.1%	△1.5%		
	年齢区分	59歳以下	6.6%	10.9%	11.6%	0.7%	
60歳～69歳		14.0%	17.2%	14.4%	△2.8%		
70歳～79歳		30.7%	26.2%	24.4%	△1.8%		
80歳～89歳		31.4%	31.3%	33.2%	1.9%		
90歳以上		17.3%	14.4%	16.4%	2.0%		
回復期リハ病棟の在宅復帰率	86.1%	87.5%	82.7%	△4.8%			
外来	延患者数	65,049人	71,514人	76,557人	5,043人		
	1日平均患者数	222.0人	244.1人	261.3人	17.2人	延患者数÷外来診療日数	
	初診患者数	12,938人	11,804人	13,243人	1,439人	初診料を算定した患者数	
	新患率	19.9%	16.5%	17.3%	0.8%	初診患者数÷延患者数×100	
	台東区民の占める割合	87.3%	83.1%	83.1%	0%		
	初期救急患者数	936人	665人	921人	256人		
	救急車受入数	251人	279人	344人	65人		
来院患者数	685人	386人	577人	191人			

【老健千束】

区分		24年度	25年度	26年度	前年度比	備考	
体制	職員数	常勤医師	2人	2人	2人	0人	○年度末を基準とする ○常勤医師以外は常勤換算人数
		介護・看護職員	64人	70人	75人	5人	
		リハビリ職員	6人	6人	8人	2人	
入所	入所利用率	92.6%	93.2%	95.2%	2.0%	延入所者数÷延ベッド数×100	
	1日あたりの短期入所者数	6.9人	6.8人	7.4人	0.6人	延短期入所者数÷365日	
	平均在所日数	—	395.6日 ※新算定式で再計算	287.7日	△107.9日	入所延べ日数÷{(新規入所者数+退所者数)÷2} ※直近の3か月分	
	回転率	—	7.6%	10.5%	2.9%	30.4日(月間平均暦日数)÷平均在所日数×100	
	台東区民の占める割合	99.9%	99.9%	99.9%	0%		
	年齢区分	65歳～69歳	3.0%	3.2%	3.3%	0.1%	
		70歳～74歳	3.0%	4.9%	1.6%	△3.3%	
		75歳～79歳	4.0%	9.0%	9.2%	0.2%	
		80歳～84歳	21.0%	15.9%	17.3%	1.4%	
		85歳～89歳	25.0%	23.7%	21.0%	△2.7%	
90歳以上	42.0%	43.0%	47.2%	4.2%			
在宅復帰率	25.6%	28.0%	34.1%	6.1%	自宅が退所先である方の割合		
通所	1日あたりの利用者数	34.6人	37.3人	40.5人	3.2人	延利用者数÷通所営業日数	
	台東区民の占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	0%		

【連携等】

区分		24年度	25年度	26年度	前年度比	備考
体制	地域連携相談室職員数	10.0人	10.0人	9.0人	△1人	○年度末を基準とする ○全て常勤換算人数
	社会福祉士	4.0人	4.0人	3.0人	△1人	
	支援相談員	2.0人	2.0人	2.0人	0人	
	介護支援専門員	2.0人	2.0人	2.0人	0人	
	事務員	2.0人	2.0人	2.0人	0人	
紹介状持参患者数	入院患者	462人	479人	544人	65人	検査依頼を除く、医師の紹介状 (診療情報提供書)を持参した患者数
	一般	329人	313人	362人	49人	
	療養	43人	37人	43人	6人	
	回復期	90人	129人	139人	10人	
	診療所から(再掲)	162人	152人	167人	15人	
	外来患者	841人	918人	952人	34人	
	病院から	422人	447人	476人	29人	
診療所から	383人	434人	434人	0人		
施設から	36人	37人	42人	5人		
診療発行患者数 情報提供書	入院患者	314人	371人	376人	5人	診療情報提供料を算定した患者数
	一般	152人	181人	186人	5人	
	療養	49人	52人	52人	0人	
	回復期	113人	138人	138人	0人	
	診療所へ(再掲)	117人	151人	164人	13人	
	外来患者	1,009人	1,112人	1,279人	167人	
	病院へ	739人	805人	919人	114人	
	診療所へ	143人	157人	227人	70人	
施設へ	7人	7人	14人	7人		
宛名なし等	120人	143人	119人	△24人		
返送患者数	入院患者	121人	138人	136人	△2人	診療情報提供書を持参した患者のうち、入院後、紹介元医療機関等に返送した患者数
	一般	53人	65人	71人	6人	
	療養	11人	21人	14人	△7人	
	回復期	57人	52人	51人	△1人	
	診療所へ(再掲)	78人	82人	81人	△1人	
緊急一時病床利用者数		143人	154人	190人	36人	
入退院・入退所経路	入院前	自宅	496人	578人	547人	△31人
		診療所からの紹介	162人	152人	167人	15人
		他病院からの紹介	197人	225人	253人	28人
		福祉施設等	65人	65人	79人	14人
		老健千束	38人	38人	45人	7人
	退院後	自宅	477人	543人	527人	△16人
		診療所への逆紹介	117人	151人	164人	13人
		他病院への入院	48人	68人	75人	7人
		他病院の外来への紹介	69人	53人	60人	7人
		福祉施設等	75人	58人	77人	19人
		老健千束	60人	46人	63人	17人
		死亡	109人	122人	110人	△12人
	入所前	自宅	67人	57人	55人	△2人
		福祉施設等	11人	7人	7人	0人
		台東病院	62人	46人	63人	17人
		他の病院	35人	41人	37人	△4人
	退所後	自宅	39人	44人	35人	△9人
福祉施設等		53人	31人	50人	19人	
台東病院		38人	38人	45人	7人	
他の病院		18人	10人	13人	3人	
死亡		26人	25人	20人	△5人	
相談件数	入院相談(一般)	1,007件	1,015件	953件	△62人	地域連携相談室の相談受付件数 (主たる内容により区分)
	入院相談(療養)	149件	144件	146件	2人	
	入院相談(回復期)	228件	273件	304件	31人	
	入所相談	227件	215件	215件	0人	
	通所相談	67件	113件	111件	△2人	
退院前カンファレンス件数	124件	140件	95件	△45人	多職種による検討会の実施件数	
訪問リハビリテーション延利用者数	1,062人	1,598人	2,353人	755人	平成23年2月より実施	

②経営分析

区分		24年度	25年度	26年度	前年度比	備考	
台東病院	経常収支比率	98.9%	99.8%	99.9%	0.1%	総収益÷総費用×100	
	総費用に対する指定管理料比率	3.8%	2.3%	2.2%	△0.1%	指定管理料÷総費用×100	
	医業収益に対する職員給与費比率	75.5%	70.3%	69.9%	△0.4%	職員給与費÷医業収益×100	
	医業収益に対する委託費比率	6.5%	6.6%	6.8%	0.2%	委託費÷医業収益×100	
	医業収益に対する材料費比率	10.3%	13.1%	12.6%	△0.5%	材料費÷医業収益×100	
	病床利用率	83.0%	86.8%	90.5%	3.7%	入院延患者数÷延病床数×100	
	1日外来患者数	222.0人	244.1人	261.3人	17.2人	延患者数÷外来診療日数	
	入院患者1人1日あたり診療収入	28,138円	30,123円	30,167円	44円	入院収益÷入院延患者数	
	外来患者1人1日あたり診療収入	6,118円	6,341円	6,715円	374円	外来収益÷外来延患者数	
	医師1人1日あたり診療収入	231,313円	234,559円	252,260円	17,701円	(入院収益+外来収益)÷年延医師数	
	看護・介護職員1人1日あたり診療収入	40,843円	47,010円	48,220円	1,210円	(看護・介護職員数)	
	CT	稼働率	64.8%	68.1%	74.6%	6.5%	稼働率=検査件数÷(1日あたり検査可能件数(12件)×外来診療日数)×100
		検査件数	2,091件	2,199件	2,624件	425件	
		うち検査依頼受付件数	98件	103件	148件	45件	
MRI	稼働率	59.4%	64.0%	74.5%	10.5%		
	検査件数	1,916件	2,065件	2,620件	555件		
	うち検査依頼受付件数	179件	174件	202件	28件		
老健千束	事業収支比率	112.4%	111.1%	112.6%	1.5%	総収益÷総費用×100	
	総費用に対する指定管理料比率	0%	0%	0%	0%	指定管理料÷総費用×100	
	事業収益に対する職員給与費比率	57.0%	55.3%	51.9%	△3.4%	職員給与費÷事業収益×100	
	事業収益に対する委託費比率	17.3%	17.2%	17.7%	0.5%	委託費÷事業収益×100	
	入所利用率	92.6%	93.2%	95.2%	2.0%	入所延患者数÷延ベッド数×100	
	1日通所利用者数	34.6人	37.3人	40.3人	3.0人	延利用者数÷通所運営日数	
	入所者1人1日あたり事業収益	13,914円	13,360円	14,468円	1,108円	入所収益÷入所延患者数	
	通所者1人1日あたり事業収益	10,908円	10,802円	10,862円	60円	通所収益÷通所延患者数	

③計画性・改善状況等

区分		24年度	25年度	26年度	前年度比	備考
講演会開催数		13件	7件	17件	10件	街かど健康教室、在宅ケア教室
その他区民向けイベント開催数		3件	14件	18件	4件	ミニコンサート等
投書件数		55件	48件	35件	△10件	
	苦情	15件	12件	22件	10件	
	助言	21件	24件	11件	△13件	
	謝意	19件	10件	3件	△7件	

主な意見と対応

- 【苦情】○接遇(態度、言葉遣い)が悪い。→個別指導を徹底した。
○待ち時間が長い。→初診患者の待ち時間短縮のために、診療枠運用の見直しを行った。
○クレジットカードによる支払いができない。→平成26年12月にクレジットカード決済を導入した。
○食事(メニューの固定化、味が薄い)を改善してほしい。→メニューの見直しを行った。
- 【助言】○正面玄関前の車止め用の縁石で躓くおそれがあるため、撤去したらどうか。
→車止め用の縁石を撤去し、かわりに安全対策用のポールを設置した。
- 【謝意】○職員の皆さんが親切にしてくれた。

④その他

居宅介護支援事業所千束(自主事業)
関係機関と連携しながら、『治療から介護へ』、『施設ケアから在宅ケアへ』とサービスを提供する上で、より迅速に質の高いサービスを提供するため、平成23年12月より居宅支援事業の運営を開始した。 ケアマネジャー(介護支援専門員)1名を常勤配置しており、平成26年度末現在の登録者数は前年度に比べ8名増の35名である。

4 評価

【評価の段階】

A	目的・要求等を十分に満たしている状態
B	目的・要求等を概ね満たしている状態
C	目的・要求等に対し補う必要がある状態

(1) 役割・機能の評価

①台東病院が慢性期医療を担う拠点病院として機能しているか ※医療連携については別途評価	
【参考指標】入院患者、外来患者の実績(P4)など	
事業者 評価 A	根拠 前年度と比べ、病床利用率は3.7ポイント上昇の90.5%、新入院患者数は31人(2.9%)増の1,091人、外来延患者数は5,043人(7.1%)増の76,557人、初診患者数は1,439人(12.2%)増の13,243人で、患者の7割強は70歳以上となった。 入院患者の病態(認知症、緩和、リハビリ等)に応じ、医師、看護師、介護士、社会福祉士、リハビリスタッフ等が、患者のもとを訪問し病態の把握や相談への対応を行うなど、高齢者の拠点病院として機能していたと認識している。
協議会 評価 A	根拠 入院部門については、病床利用率が一般病床、療養病床、回復期リハ病棟ともに上昇し、新入院患者数も着実に増加しており、回復期リハ病棟の在宅復帰率も堅調である。外来部門については、1日平均患者数が着実に増加しており、新患率も堅調に推移している。 また、高齢者を中心に、認知症や複合疾患を持つ患者など、対応が難しい患者を柔軟に受け入れており、慢性期医療を担う拠点病院として機能していると評価できる。

②老人保健施設千束が在宅復帰に向けた入所施設として機能しているか ※地域との連携については別途評価	
【参考指標】入所者の実績(P4)など	
事業者 評価 A	根拠 前年度と比べ、入所利用率は2ポイント上昇の95.2%、在所日数は、退所前に看護師や社会福祉士、介護支援相談員が中心となって、家族や関係機関と連携をとりながら退所支援等を行った結果、107.9日(27.3%)減の287.7日となった。 また、回転率は2.9ポイント上昇の10.5%、在宅復帰率は6.1ポイント上昇の34.1%(目標値30%)であったことから、在宅復帰に向けた施設として機能していたと認識している。
協議会 評価 A	根拠 入所利用率は着実に上昇しており、1日あたりの短期入所者数も堅調である。退所支援を担う介護支援専門員(ケアマネジャー)を増員し、退所支援の充実を図ったことにより、平均在所日数が短縮され、回転率も上昇している。また、在宅復帰率も上昇し目標値を上回っていることから、円滑な在宅復帰に向けた施設として機能していると評価できる。

③医療機関等との連携は適切に行われているか	
【参考指標】医療連携の実績(P5)など	
事業者 評価 A	根拠 前年度と比べ、紹介状持参入院患者数は65人(13.6%)増の544人、紹介状持参外来患者数は34人(3.7%)増の952人となった。診療情報提供書発行入院患者数は横ばいの376人、診療情報提供書発行外来患者数は167人(15%)増の1,279人、緊急一時病床利用実数は36人(23.4%)増の190人となった。 また、検査依頼受付件数は、CTが45件(43.7%)増の148件、MRIが28件(16.1%)増の202件となるなど、医療機関等との連携を適切に行うことができたと認識している。
協議会 評価 A	根拠 他の医療機関から紹介された患者や台東病院から他の医療機関に紹介した患者は、入院・外来ともに増加している。退院前カンファレンス件数の減少については在宅医等との連携の強化に伴うものであり、退院支援の充実のために、師長や担当看護師を中心とした退院支援に取り組んでいる。また、区内の全ての診療所を訪問し、顔の見える連携に努めており、連携が適切に行われていると評価できる。

④台東病院と老人保健施設千束が連携しながら、互いの機能を効果的に発揮しているか

【参考指標】入退所経路の実績(P5)など

事業者 評価 A	根拠	<p>前年度と比べ、施設間の移動は、台東病院から老健千束が17人(37%)増の63人、老健千束から台東病院が7人(18%)増の45人となった。</p> <p>病院と老健がお互いの機能を補完しながら、入院患者及び入所者に対して、複合施設の利点、互いの機能を活かした安心感のあるサービスを提供できたと認識している。</p>
協議会 評価 A	根拠	<p>台東病院は老健千束の退所者の約30%を受け入れ、老健千束は新入所者の約40%を台東病院から受け入れており、高齢者の慢性疾患への対応と在宅復帰に向けた支援を一体的に行っている。また、老健千束の認知症専用50床については、病院の医師との連携等により、難しい事例にも適切に対応しており、互いの機能を効果的に発揮していると評価できる。</p>

⑤退院・退所後も、家族等の支援や在宅でのリハビリテーションの支援等により、在宅生活を支援しているか

【参考指標】通所リハビリテーションの実績(P4)、訪問リハビリテーション延利用者数の実績(P5)など

事業者 評価 A	根拠	<p>前年度と比べ、訪問リハビリ延利用者数は755人(47.2%)増の2,353人となった。</p> <p>退院退所後の生活をより理解するために、状況に応じて、職員が退院退所者の住居を訪問し、調査・アドバイス等を行い、在宅復帰に繋げている。また、在宅で介護を行っている方に対し、『街かど健康教室』、『知って得する！在宅ケア教室』を開催するなど、在宅介護の相談にも対応しており、在宅生活の支援ができたと認識している。</p>
協議会 評価 A	根拠	<p>訪問リハビリテーションについては、理学療法士を1人増員するなど体制を強化したことによって、利用者数が着実に増加しており、平成26年2月に定員を拡大した通所リハビリテーションの利用者数も堅調である。また、退院退所者の自宅訪問や介護を行っている家族への情報提供・相談対応を実施しており、退院・退所後も在宅生活を支援していると評価できる。</p>

【その他】適切な機能水準が満たされているか

平成26年2月に日本医療機能評価機構の病院機能評価(一般病院1)を受審し、平成26年5月2日に認定を取得した。評価項目ごと、機能や業務水準について評価するとともに見直しを行っている。

(2) 効率性・経済性の評価

① 台東病院の施設・機器等を効率的に活用しているか

【参考指標】 経営分析結果 (P6) など

事業者 評価 B	根拠	病棟や外来については、病床利用率が90.5%、1日あたりの外来患者数が261.3人であったことから、施設を効率的に活用できたと認識している。 一方、高額医療検査機器 (CT・MRI) については、検査依頼受付件数がCTは148件、MRIは202件と十分に活用できておらず、共同利用の向上のためにより一層周知徹底などに努める必要があり、課題が残っていると認識している。
協議会 評価 B	根拠	施設については、病床利用率や外来患者数の実績が堅調であり、効率的に活用することができている。一方、高額医療機器のCT・MRIについては、稼働率は概ね適正な数値まで上昇しているものの、検査依頼受付件数は依然として低調であるため、地域の診療所等との連携を強化することによって共同利用の推進を図り、より一層、高額医療機器の効率的な活用に努める必要がある。

② 老人保健施設千束の施設等を効率的に活用しているか

【参考指標】 経営分析結果 (P6) など

事業者 評価 A	根拠	前年度と比べ、入所利用率は2ポイント上昇の95.2%、1日当たりの短期入所者数は1.4人増の8.2人となった。 利用者に快適な療養環境を提供するために、屋上リハビリ庭園、エントランスホールでのコンサート、各階食堂でのイベント食などの取り組みを行っており、施設を効率的に活用できたと認識している。
協議会 評価 A	根拠	入所利用率や1日あたりの通所利用者数は堅調である。また、利用者が楽しみながらリハビリテーションを行えるよう、エントランスホールや屋上などを利用した様々なイベントを定期的に開催し、利用者からも好評を得ていることから、施設等を効率的に活用していると評価できる。

③ 台東病院の事業運営の効率性は発揮されているか

【参考指標】 収支 (P3)、経営分析結果 (P6) など

事業者 評価 B	根拠	前年度と比べ、医業収益は7.4%増加したものの、医業費用も消費税増税の影響等に伴い8.1%増加した。材料費比率は0.5ポイント低下の12.6%、職員給与費比率は0.4ポイント低下の69.9%、委託費比率は0.2ポイント上昇の6.8%であった。 費用面で予算作成時の収益適正比率 (収益と支出のバランス) を確保することができなかつたため、人材確保や収益・費用管理において課題が残っていると認識している。
協議会 評価 B	根拠	消費税の増税や人件費の増加等によって費用は増加しているものの、病床利用率の上昇や外来患者数の増加、患者の診療単価の上昇等によって、収益も増加しているため、損益は僅かに改善しているが、引き続き、収益・費用の管理を徹底しながら、効率的な運営を行う必要がある。

④ 老人保健施設千束の事業運営の効率性は発揮されているか

【参考指標】 収支 (P3)、経営分析結果 (P6) など

事業者 評価 A	根拠	前年度と比べ、事業費用が2.5%増加したものの、事業収益も4.8%増加したため、損益は1,426万5千円増の9,846万4千円の黒字となった。また、職員給与費比率は3.4ポイント低下の51.9%となった。通所リハビリ利用者数の増加や費用管理の精査など、若干の課題が残っているものの、老健全体としては、概ね効率性は発揮されていたと認識している。
協議会 評価 A	根拠	消費税の増税や給食委託費の増加に伴い費用は増加しているものの、入所利用率の上昇や通所利用者の増加、入所者単価の上昇等によって、収益が費用以上に増加しているため、経常利益は増加しており、経営状況は良好であることから、効率的な運営が行われていると評価できる。

(3) 計画性・改善状況等の評価

①前年度の運営協議会の意見を台東病院・老人保健施設千束の運営に活かしているか	
【参考指標】平成26年度評価表(別紙)など	
事業者 評価 A	根拠 前年度の運営協議会であがった『病床利用率の向上』、『人件費率の改善』、『高額医療機器の共同利用(歯科医師会への案内等)』、『訪問リハビリの拡充』、『在所日数の短縮』については、院内で広く周知し、検討改善を行ってきた。また、区内の全ての診療所等を訪問するなど、広報機能の強化に努めてきた。 高額医療機器の共同利用については、引き続き改善が必要であるが、概ね全ての意見を運営に活かすことができたと認識している。
協議会 評価 A	根拠 前年度の運営協議会で提示されたそれぞれの課題に対し、スタッフ全員で改善に取り組んできた結果、CT・MRIの共同利用については引き続き改善の余地があるものの、その他の病床利用率、人件費率、訪問リハビリ、在所日数については成果が表れており、運営協議会の意見を運営に活かしていると評価できる。

②利用者や区民の意見を取り入れ、台東病院・老人保健施設千束の運営に活かしているか	
【参考指標】投書件数、主な意見と対応(P6)	
事業者 評価 A	根拠 地域連携相談室の患者相談窓口において、看護師、社会福祉士、介護支援相談員、事務員等が利用者の相談に対応しているほか、各部署においても責任者が対応を行っている。相談内容は患者満足度調査等の意見とあわせ一括管理し、毎週の幹部会議や『皆さまのお声委員会』で改善を図っており、利用者の意見を運営に活かすことができたと認識している。
協議会 評価 A	根拠 患者相談窓口での対応、各部門での相談対応、ご意見箱の設置、入院患者やその家族、外来患者に対する患者満足度調査の実施などによって利用者の意見を取り入れ、『皆さまのお声委員会』等で検討し、クレジット決済の導入や玄関前ロータリーの段差の解消等を実施しており、利用者等の意見を運営に活かしていると評価できる。

③区立の病院・老人保健施設だからこそできる役割を果たしているか	
事業者 評価 A	根拠 台東病院では、『街かど健康教室』・『知って得する！在宅ケア教室』の開催、保健所健診キャンペーンへの看護師派遣、『看護の日イベント』の開催、区立中学校のインターンシップや研修会、ボランティアの受け入れ、地域の運動会への参加などを行ってきた。 老人保健施設千束においても、地域の子ども会との交流や文化祭の開催などを行っており、区立の施設としての役割を果たすことができたと認識している。
協議会 評価 A	根拠 区立施設として、台東病院では、区民の健康増進のための健診や健康教室等の講演会の開催、区が行っている事業への協力などを実施しており、年々内容の充実が図られている。また、老健千束でも、地域の方々との世代を超えた交流を積極的に行っており、区立の施設だからこそできる役割を果たしていると評価できる。

④計画性を持って、台東病院・老人保健施設千束を運営しているか	
事業者 評価 A	根拠 毎週の幹部会議や毎月の事業推進会議において、運営状況の確認や課題の検討を行ってきた。また、部門・部署毎では、設定した年間目標の達成に向け、進捗状況を管理しながら業務改善に取り組み、年度末の報告会で検証を行うなど、計画的に施設を運営することができたと認識している。
協議会 評価 A	根拠 部門ごとに、目標設定から進捗状況の管理、達成状況の検証までを一体的に取り組んでいる。院内の会議においては、経営状況、提供しているサービスの機能や質について検討を行い改善を図っている。また、定期的に区との連絡会を開催し、利用者実績の報告、課題の進捗状況の確認など、情報共有の徹底を図っており、計画性を持って施設を運営していると評価できる。

5 総合評価等

【総合評価】

台東病院については、課題であった病床利用率は各病棟ともに上昇し、新入院患者数や外来患者数も着実に増加しており、回復期リハ病棟の在宅復帰率も堅調である。また、地域の医療機関等との連携においては、CT・MRIの共同利用をより一層推進する必要があるものの、看護師を中心とした退院支援の充実や区内の全診療所への訪問など、連携の強化に取り組んでおり、高齢者の慢性期医療を担う拠点病院として機能していると評価できる。

老健千束については、入所利用率は上昇し、1日あたりの短期入所者数も堅調である。課題であった平均在所日数は、退所支援の充実により短縮され、回転率も上昇している。また、在宅復帰率も上昇し、目標を上回る結果となっており、円滑な在宅復帰に向けた施設として機能していると評価できる。

収支については、台東病院の損益は改善傾向にあるものの僅かながらマイナスであった。一方、老健千束の損益は堅調に推移している。両施設とも、医師、看護師、介護士等の人材を安定的に確保しながら、より一層収益の増加に努める必要があるものの、施設全体の損益は黒字であり、経営状況は概ね良好であると認められる。

その他、訪問リハビリテーションの体制強化や退院退所者の自宅訪問等を実施し、在宅生活の支援の充実を図っている。また、患者満足度調査の実施、皆さまのお声委員会の運営、区との連携体制の強化など、職員が一体となって運営改善に取り組み、計画的な施設運営に努めている。

今後とも、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、利用者や運営協議会の意見等を運営に活かしながら、地域の医療機関等や区と連携し、質の高い保健・医療・福祉サービスを提供することが求められる。

【その他意見】

- 高齢化の進展に伴い、足腰などの慢性的な痛みを抱える高齢者が増えていくことが予想されるため、整形外科のより一層の充実を期待する。
- CT・MRIの共同利用の推進のために、台東病院等の公式ホームページに医療機関向けのサイトを設置してみてはどうか。
- 台東病院、老健千束ともに、サービスの質の向上と運営の効率化を図りながら、職員が働きやすい環境づくりにも努めてほしい。